

パートナーシップで進めるまちづくり

京まち工房 57

京都市景観・まちづくりセンター ニュースレター

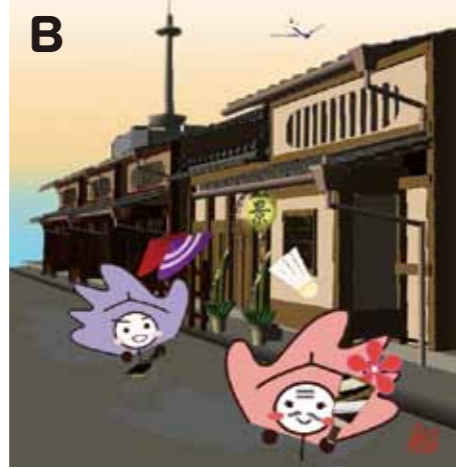
特集

文化遺産ウォッチ



まちがいさがし

A、B 2つの絵に間違いがあります。いくつあるかお答えください。



正解者に抽選で**5名**の方に「**京都いまむかし彩色写真館**」**ポストカード**(12枚組)をプレゼント。

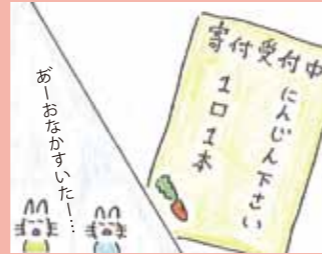
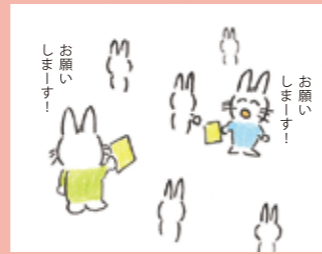
はがきに答えと住所・氏名・**〒600-8127 京都市景観・まちづくりセンター**連絡先を書いて右記住所まで
1月31日当日消印有効。

京まち工房56号まちがいさがしの答えは「8つ」でした。(左図参照)
当選者は、プレゼントの発送に代えさせていただきます。
①流れ星 ②猫の尻尾 ③鐘魁(しょうきさん)の位置 ④菊の花の数 ⑤表札 ⑥格子 ⑦まち右衛門の望遠鏡 ⑧景都の髪飾り

賛助団体

株式会社フラットエージェンシー / 株式会社八清 / 一般社団法人京都市不動産コンサルティング協会 / 松ヶ崎自治連合会 / 桂坂学区自治連合会 / 有隣自治連合会 / 社団法人京都市建築士事務所協会 / 株式会社地域計画建築研究所 / 株式会社ジェイアール西日本伊勢丹 / 株式会社マープル / 平安建材株式会社 / NPO法人古材文化の会 / 修徳自治連合会 / 京都駅ビル開発株式会社 / 京都市建築協定連絡協議会 / 株式会社ゼロ・コーポレーション / 社団法人京都市観光協会 / ローム株式会社 / 学校法人瓜生山学園 / 京都造形芸術大学 / 京町家居住支援者会議 / NPO法人マンションセンター京都 / NPO法人京滋マンション管理対策協議会 / 大阪ガス株式会社 / 一般社団法人相続相談センター / 立命館大学歴史都市防災センター / ミサワホーム近畿株式会社 / 都市居住推進研究会 他

京兔物語



京都市景観・まちづくりセンター

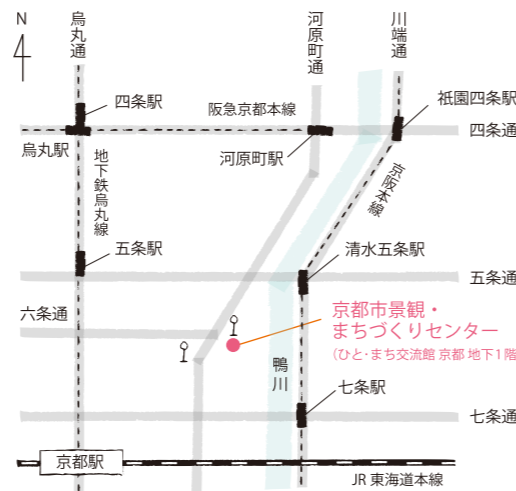
〒600-8127
京都市下京区西木屋町通上ノ口上る梅湊町83番地の1
(河原町五条下る東側) ひと・まち交流館 京都 地下1階
TEL: 075-354-8701 FAX: 075-354-8704
<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>

開館時間
平日・土 9:00~21:30
日・祝 9:00~17:00

休館日
毎月第3火曜日(国民の祝日にあたるときは翌日)
年末年始(12月29日~1月4日)

交通系統
バス 市バス4・17・205号系統「河原町正面」下車
電車 京阪電車「清水五条」下車 徒歩8分
地下鉄烏丸線「五条」下車 徒歩10分

まち右衛門
Twitter



センターへお越しの際は公共交通機関をご利用ください。



京都市景観・まちづくりセンターは環境負荷低減に努めています。

design:Marble.co

まちづくりイベント
京町家アーティスト・イン・レジデンス
景観・まちづくり大学
京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩

まちづくり報告
古き良きものを保存・継承していくために…
景観・まちづくりシンポジウム
古川町商店街

コラム
私と京都
スタッフのつぶやき

<http://machi.hitomachi-kyoto.jp/>





2010-12年選定
京都の伝統的木造都市住宅
京町家群

“京町家が歴史的木造建造物としてのみならず、京都の伝統的生活様式を伝え、京都の歴史的町並に欠かせない文化遺産として再認識され、生活文化を語り体現する歴史遺産として再生していく”、という地域社会の期待に添いつつあります。京町家が抱える課題は、歴史地区をもつ世界の他の都市にも共通しており、これからの持続的な文化遺産としての継承のためには、更に今まで以上に財政的、制度上の課題等を地域社会で協調して解決していくことが求められています。



2012年選定
東日本大震災被災文化財

2011年3月11日の大地震及び大津波は東日本の広範な地域に大きな被害をもたらし、多くの尊い命が失われました。また、人々の心の拠り所となる文化遺産にも、被災地域主導による文化財復旧活動を国内外の協力を得て支援するため、「東日本大震災被災文化財復旧支援事業“Save Our Culture (SOC)”：“心を救う、文化で救う”」を、2011年11月に立ち上げました。
※ 詳細 <http://save-our-culture.jp/>

特集

文化遺産ウォッチ



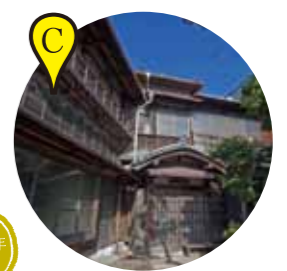
釜座町町家修復完成 (写真：井上成哉)

ワールド・モニュメント財団、「2012年文化遺産ウォッチ」に「京町家群」選定！

世界の歴史的建造物などの文化遺産の保護・保存活動を行っているワールド・モニュメント財団 (World Monuments Fund: WMF / 設立 1965 年、本部：ニューヨーク) により、2011年10月5日に発表した2012年版「ワールド・モニュメント・ウォッチ (World Monuments Watch: 以下文化遺産ウォッチ)」*に、2010年版に引き続き、「京町家群」が選定されました。広く世界に向け「京町家」の持つ文化的価値やその保全・再生の必要性が情報発信されます。WMFの支援による国際協調プロジェクトは釜座町町家の再生から1年が経過し、地域社会との協働を継続するために次のステップを迎えようとしています。

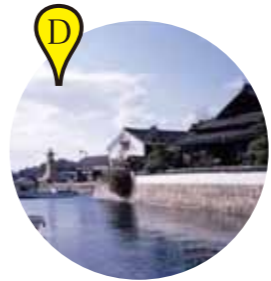
* ワールド・モニュメント・ウォッチ (文化遺産ウォッチ) については京まち工房49号にも掲載しております。

日本で
選定されている
文化遺産ウォッチ



2012年選定
旧平櫛田中邸

明治以降、近代化を歩む東京で芸術家達のコミュニティを形成しつつあった地域社会、上野・谷中。美術家たちにより建てられた旧平櫛田中邸は、大正期の住居建築であり、また近代アトリエ建築の先駆けです。



2002年・04年に選定。
坂本竜馬ゆかりの旧魚屋
萬蔵宅の修復・再生。
鞆の浦 ともつら

↑ お申込みはこちら
↑ WMFの支援で本とDVDできました！

釜座町町家では、WMFから支援を受けて作成した、修復の過程を記録した本とDVD「Kyoto Machiya Revitalization Project」をお買い求めいただけます。

住所 中京区三条通新町西入ル釜座町 32番地

文化遺産ウォッチとは

WMFが1996年より隔年で、「緊急に保存・修復などの措置が求められている文化遺産」を世界中からの申請を得て、選考しリストとしてまとめ、広く配信し保護活動の必要性を訴えるというプログラムで、今回が9回目となります。2012年版には世界中で67件、日本からは大震災被災文化遺産を含め3件が選定されました。文化遺産には、ユネスコ世界遺産でもあるナスカの地上絵(ペルー)など世界的に著名なものから、ティエベレのクール・ロワイヤル(ブルキナファソ：西アフリカ)という地方の宝として親しまれているものまで、多様なものが含まれます。



ナスカの地上絵



ティエベレのクール・ロワイヤル

詳細および写真 <http://www.wmf.org/watch> 英文

* 文、写真は WMF 広報資料より一部抜粋しています。

京町家 アーティスト・イン・レジデンス 2011

京町家アーティスト・イン・レジデンス* (Artist in Residence in KYOTO-Machiya 2011/ 以下、京町家 AIR) が
2011年9月から始動しました。 *アーティスト・イン・レジデンスとは芸術制作を行う人物を招き、その土地に滞在しながらの作品制作を行う事業のこと

オランダ・アムステルダムを拠点とする日本文化センター (Stichting't Japans Cultureel Centrum) 代表 西郡賢氏 (以下「JCC」) と京都市景観・まちづくりセンターが共催するアーティスト・イン・レジデンスプログラムであり、オランダと日本 (京都) の文化交流を目的としています。京町家 AIRは、オランダのアーティストに、京都の伝統文化や生活文化を体験していただき、二国間の文化交流を通じて「地域社会に何を提供できるのか」をテーマとしています。京都の伝統的な住まいである京町家において、地域の方々と交流しながら生活し、アーティストの感性と京都の文化が融合することによって、新たなアイデアが生み出され、相互に発展することを期待しています。

滞在中の出来事

滞在中は多くの京町家を訪問し、制作や研究活動を行いました。



無名舎での座談会 & ウェルカムパーティー



西陣の帯屋捨松 (景観重要建造物) の見学の様子



町家所有者・居住者との交流



京都造形芸術大学 環境デザイン学科とのワークショップ

発表会

アーティストによる発表会では作品の展示や研究のプレゼンテーションを行いました。



発表会 vol.1

開催日 10月29日
会場 ふじたアート
アーティスト ビルジット・ユージェンハイト アレックス・デ・ウルフ



発表会 vol.2

開催日 11月23日
会場 江湖館
アーティスト ハニー・ヴァン・デン・ベルグ エリー・ダンカー

アーティストの紹介



10月滞在

ビルジット・ユージェンハイト
Birgit Jurgenhake

建築家。オランダの Mecanoo 建築事務所、Kees Christiaanse 建築事務所等を経て、デルフト工科大学建築学科准教授。伝統的都市住宅の比較研究が専門。



10月滞在

アレックス・デ・ウルフ
Alex de Wolf

イラストレーター。イラストを手がけた絵本はヨーロッパ各地をはじめアジアでも出版。子どもたちとのアートワークショップを日本で開催。



10・11月滞在

ハニー・ヴァン・デン・ベルグ
Hanne van den Bergh

グラフィックデザイナー、研究者 (情報デザイン)。アムステルダムを拠点にイタリア、ベルギー、カナダ、ウガンダなど世界各地で情報デザインに関するフィールドワーク及び展覧会を開催。



9・10・11月滞在

エリー・ダンカー
Ellie Duinker

アムステルダム・リートフェルト芸術学院に在学中。2009年京都精華大学に留学。テキスタイル研究を中心に藍染や草木染の日本の伝統技術を学ぶ。

景観・まちづくり大学

Landscape and community collaboration university



景観・まちづくり大学は京都のまちづくりに関心のある人々が集い、語り、交流する場です。共に学び、共に育つことを目的としています。



京のまちづくり史セミナー

第3回 9/17 (土) 開催

京の緑のまち歩き ①

—千年の風土を伝える景観の復元—

講師 真板昭夫氏 (京都嵯峨芸術大学教授)

会場 コミュニティ嵯峨野、大覚寺大沢池



大覚寺大沢池を1200年の歴史を遡り平安時代の風景に再生するプロジェクトについて、京都嵯峨芸術大学の真板教授にお話しいただき、大沢池に出掛けて周辺を散策しました。大覚寺大沢池は1200年前に嵯峨天皇により造られ、林泉形式の池そのものに存在する構造物と、今日まで保たれてきた自然風景とが一体となって価値を生み出している「自然系文化遺産」です。現代になり、水質と周辺の自然環境の悪化で優雅な風景が豹変していました。そこで2004年に京都市と京都嵯峨芸術大学、大覚寺、市民が協力して大覚寺大沢池環境再生への取組「景観修復プロジェクト」が始まりました。池を荒らす草魚を大量に捕獲し、観光客によって荒らされた土手を土壌改善し、観光客の侵入を防ぐ柵を設置し、弱って

いた木々が枯れるのを防止しました。こうした周辺環境の改善によって、池には水鳥が帰って来るようになりました。そしていよいよ1200年前の景観へ修復するにあたり、「当時の風景」の根拠が「七景三勝」に求められました。「七景三勝」とは水が深い山の源泉から海に注ぐ流れを庭や生け花に表すもので、嵯峨天皇もこの考えを取り入れて大沢池を造ったのです。脈々と引き継がれている生け花を抛所に植生された蓮は再びこの池に美しい花を咲かせ、観光客を呼んでいます。この環境再生計画により大沢池の存在価値が再認識され、今後もこうして人の手が関わることで大覚寺大沢池はその美しい姿を保ち続けるでしょう。



第4回 10/8 (土) 開催

京の緑とまち歩き ②

—船岡山から見渡す京都、鎮守の森と人の歴史—

講師 小林正秀氏 (京都府立大学特別講師)

会場 京都ライトハウス、建勲神社



現在「ナラ枯れ」という森林被害が急拡大し、京都の景観を損ねています。ナラ枯れの原因や現状、今後の課題と取組について、京都府立大学特別講師の小林先生にお話しいただきました。ナラ枯れとは、健全な樹木がカシノナガキクイムシの穿入を受けた後、萎れて枯れる樹木の伝染病です。近年被害が拡大し、神社仏閣の多い京都では数多くの名木がナラ枯れの危機に曝されています。人手不足や森林の所有形態の複雑さ、経費不足等により、法律に則った被害の食い止めに十分でないのです。昔の日本庭園の写真と現在の風景を比較すると、マツ枯れによって、ほとんどの名木が失われてきたことが判ります。生活スタイルの変化などから、人が森に入ることが少なくなり、

国産の森林農産物が減少する中で、竹林の拡大や獣害が増加し、マツ枯れやナラ枯れ被害も拡大しているのです。このままでは、森林の公益的機能が損なわれかねない深刻な状況に陥っています。京都は古くから日本文化の基点であり、古代の京都盆地の植生が残っている鎮守の森は、周辺地域や京都の人・まちに大きな役割を果たしてきました。京都の景観は、自然との調和によってその雰囲気や趣が表現されています。森林はお金には換算できない命の源です。全ての源である森林を未来に引き継いでいくためには、森林への人の積極的な関わりが不可欠です。そのためには、先人達の知恵に学び、森林を有効活用したものづくりに取り組む必要があります。



京町家まちづくりサロン・京町家まちづくり散歩

「京町家まちづくりサロン」と「京町家まちづくり散歩」は、参加費の一部が京町家まちづくりファンドへの寄付となるチャリティイベントです。



京町家まちづくりサロン

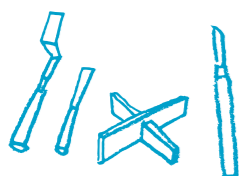
10/1 (土) 開催

「京の四季を愉しむ会 in 四条京町家」

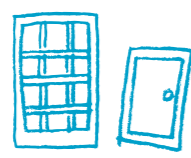
— 秋「建具の話と建具替え体験」 —

お話 株式会社新宮 新宮英幸氏

共催 NPO法人 四条京町家



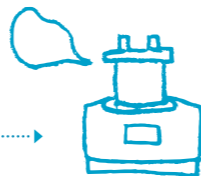
道具の説明や、実演



建具のお話



冬の建具へ模様替え



作業後のお食事

「建具屋の仕事は、昔は一般家庭8割、社寺2割だったが、今は割合が逆。主な仕事は社寺の建具修復などになった。」とお話される新宮さん。京町家の減少で仕事内容にも変化が出ている。この日は、作業所でしか拝見できない貴重な道具の説明や、実演もしていただき、参加者は作業の緻密さに驚いていた。京町家まちづくりファンドで応援させていただいた小泉邸は、建具一式を新宮さんに新調していただいた貴重な物件。手掛けられた清水工務店の大河内氏、家主の小泉氏にも同席していただき、当時のご苦労をお聞きした。

「間仕切りのない事務所を住居用の間取りに変えたため、すべての建具を新調した。京町家の外観を残しながら、90歳になる母も生活しやすいように工夫した。」(小泉氏)

「簡単な設計図しかない中工事を進めた。建具は外枠のサイズだけ設計し

デザインなどは建具屋さんにおまかせした。」(大河内氏)

「一般的な家庭だが、建具を一式そろえることで、とにかく沢山つくった、という印象。」(新宮氏)と、それぞれに当時の思い出がよみがえり、施工、工務店、建具屋の思いの通った京町家改修談に耳を傾けた。建具は施主の思いひとつで変わる。本物の建具が入ることで、職人技も継承されていく。参加者の中からは、それぞれの環境で取り入れていけるものを取り入れていきたい、という声が聞かれた。

京町家の暮らし体験、今回は夏の建具から冬の建具へ模様替え。小泉氏の指導のもと、参加者同士が助け合いながら手際よく建具をはめていった。作業後のお食事は「月はじめの献立」。気分新たに毎月1日に頂いたという「あらめのたいたん」、「紅白なます」、「あずきご飯」。贅沢煮などのおぼんざいも並び、まるで商家の家族を再現したかのようなひと時となった。

京町家まちづくり散歩

10/29 (土) 開催

「訪問！京焼・清水焼の拠点、茶わん坂に暮らす名工たち」

— 陶芸家と行く、進化する美術陶芸の舞台裏へ —

ガイド 五条坂・茶わん坂ネットワーク発起人の皆様

<http://www.gojo-chawanzaka.jp/>

※この企画は「まいまい京都2011秋」に参加しています。 <http://www.maimai-kyoto.jp>

春に引き続き2回目となった茶碗坂のまちあるき。陶芸に興味のある方から焼物初心者まで、実際に工房の見学や陶芸作家との交流ができることは、それぞれに貴重な機会になった様子。「焼物文化ゾーンとしての五条坂・茶碗坂を発信していきたい」とガイドの皆様も今後に意欲を高めて下さった。

京町家まちづくりファンドでは、楽しみながら京町家を未来へ伝える活動にご賛同頂ける方の輪を広げて行きたいと思っております。

古き良きものを 保存・継承していく ために…



修復中の台所

中川さんは、恩師(外村吉之介先生)の「数百年続いた家の歴史・文化を次代につなぐべき」との教えに従い、夫の協力を得て、既に一部改修されてしまった実家を、内部の意匠も含め元の姿に修復することを決意、修復工事を実施されています。

とのむら きちのすけ
外村吉之介

(1898年 - 1993年)
大正から昭和の民芸運動家、染織家。倉敷民藝館の初代館長。



昔の台所の様子

古写真などをもとに修復工事を開始

今回改修される長谷川家住宅は、洛外の東九条村の旧家であり、町家と農家の意匠を併せ持っています。設計施工を依頼された(株)リアートの垣田さんは、数多くの町家や古民家の改修工事に携わられているが、「現代風に使い勝手

が良いよう改修することを依頼されることが多いが、今回のように、ダイニングキッチンやリビングを土間に戻す工事はあまりない。」とのことで、戦後間もない頃に偶然にも残されていた古写真や古図面(明治27年)をもとに、巨大な古民家の修復に挑んでいます。



困難を極める修復工事

延べ面積100坪を超えるこの古民家は、祈祷札には寛保2年(1742年)と記載されています。しかし、京都府立大学の長谷川教授や京都市文化財保護課の石川技師の調査でも、いつに建築されたものなのか定かではないそうです。また、昭和35年に室内を洋風に改修された部分は、構造部が隠されており、雨漏りや蟻害、腐朽などの発覚を遅らせ、至る方向に不同沈下もしていました。それに加え、長年の月日で蓄積された、大量の日用品や古文書が2階に保存されており、さらには、巨大な屋根面にある土と瓦は、総量30tもあり、複数の工程に分けて工事をする必要があり、かなりの工期を要しています。



座敷部分の庇(施工中)

改修後の用途

改修後の用途は、まだ正式には決まっていますが、大量の古文書や日用品の展示や、中川さんが幼い頃に亡くなった御尊父である長谷川良雄画伯の絵画の展示、手織教室などに使用したいとの意向です。現在、長谷川教授や石川技師の助言を受け、国の登録文化財も視野に入れた修復工事が進められています。

はせがわよしお
長谷川良雄

明治から昭和初期の水彩画家。浅井忠画伯に師事。風景画が多く残る。



景観・まちづくりシンポジウム

まちなか街区の防災を考える

人命 - 絆 - 暮らし - 風景 -をつなぐ

景観・まちづくりシンポジウム

まちなか街区の防災を考える 人命 - 絆 - 暮らし - 風景 -をつなぐ

日時 10/1 (土) 14時~16時半開催

会場 ひと・まち交流館 京都 大会議室

話題提供

町家文化を継承する防災の知恵

—つながりて災害を乗り越える—

講師 山崎 正史氏 (立命館大学理工学部教授)

パネルディスカッション

コーディネーター 山崎 正史氏 (立命館大学理工学部教授)

パネリスト 須田 達氏 (立命館大学グローバル・イノベーション研究機構准教授)
牧本 晴男氏 (成逸自主防災会長)
井上 恭宏氏 (合同会社KICS レール&ショッピング委員会委員長)
大窪 健之氏 (立命館大学理工学部教授)



今回の景観・まちづくりシンポジウムでは、防災における京都特有の課題について、地域住民、事業者、研究者の講演や議論を通じて、京都における地域・商業者の取組や災害研究の状況を確認し、参加した京都市民や行政関係者とともに更なる防災意識の向上、活動の契機を図りました。



町家文化を継承する防災の知恵 —つながりて災害を乗り越える—



山崎 正史氏
立命館大学理工学部教授

木造建築こそ歴史都市京都の価値を形成しています。デザインを尊重する姿勢にこだわって、延焼しやすい木造の弱点を、京都独特の防災の知恵でカバーしてきました。例えば京都では20%強の方が愛宕神社に年に1度お参りしており、高い意識を持って火の用心をされています。また京町家では、火災で表通りに逃げられない事態に備え、裏隣や隣の庭に繋がる裏木戸をつくって避難路としてきました。防災にはこうした京都人の知恵を引き継いでいくことが大切です。そして木造建築は「強くもあれば弱くもある」。昔の知恵で手入れをすれば強いし、しなければ弱い、ということを理解する必要があります。

「人命」をつなぐ

日頃の家の点検や意識が命を守るカギ



須田 達氏
立命館大学グローバル・イノベーション研究機構准教授

京町家の耐震補強というのは、柔らかい構造に一か所だけ堅いものを入れると、それは逆に被害を増長させるようなものになってしまう。本来の京町家の性能を理解した上で、耐震補強の方法を選ぶことが大切です。耐震補強を行うには、しっかりした軸組が必要で、劣化部分の修復を事前に行わずに耐震補強しても意味がありません。建物が軋みだした、雨染みが出始めたなど、日頃の点検で劣化箇所を早期に把握して修復することこそ、耐震補強や建物を守る第一歩になります。いつも自分の家の状態を見守ることを心がけて生活することが何よりの防災になるでしょう。

「絆」をつなぐ

顔のみえるつながりて助け合える関係づくりやルールづくり



牧本 晴男氏
成逸自主防災会長

京都西陣の成逸学区は人口は2,575人。平成21年に住民手作りで作成した「避難所運営マニュアル」は、災害発生直後から3週間ぐらいを想定しています。地震が発生した時、誰が避難所の鍵を開けて、誰がリーダーでまとめていくか等、各役割を明確にして、いざという時のスムーズな避難所運営に備えています。こうした取組を通して改めて人のつながりの大切さを痛感しています。マンション居住者に町内会加入を促進する「せいいつ方式」により、マンション住民の加入も徐々に増えています。町籍簿の整理等をしてしながら、今一度、町内にどんな人が住んでいるかを把握し、いざという時、要介護者をみんなで助け合える関係を作っていくことを考えています。

「暮らし」をつなぐ

商業ネットワーク基盤を基に、消費者・観光客への防災に取り組むアイデア



井上 恭宏氏
合同会社KICS
レール&ショッピング委員会委員長

合同会社 KICS は、京都市内の商店街の連合体で49団体・約1,300店舗が加盟しており、クレジットカードの一括処理事業を始め、多方面で事業を展開しています。当団体を通じて、商店街同士のつながりが非常に密になってきており、いざ何かが起きた時には、相互に助け合うという商店街同士の連携や情報交換も容易になっています。また、大震災などの有事の際は、一日10万人以上という観光客をも対象とした支援・誘導に取り組むことが、我々京都の商店街の1つの役割だと考えています。今後は、アーケード放送や緊急速報エリアメールによる緊急誘導や、コミュニティラジオとの連携、緊急地震速報システムの導入など、多様なアイデアの実行と組織全体の防災面での連携強化につなげていきたいと思っています。

「風景」をつなぐ

住民参加で自分の地域の防災力を想定・確認し、対策を検討していくプロセス



大窪 健之氏
立命館大学理工学部教授

京都の美しい街を次世代に残していくために、オリジナルの持つ文化的な価値を維持したまま、災害の安全性と、活用の可能性を高めていく取組を進めています。京都に地震がきて何が一番困るか。1つ目は、狭い道路が塞がってしまうこと。2つ目は、断水の中での防災水利の確保。3つ目は同時多発の火災。これらの対策全てを人任せにすることはできません。「安全で美しい環境づくり」というハードの部分と「地域コミュニティ」の防災力向上というソフトの部分について、市民と行政の協働が不可欠となってきます。地域に起こり得る災害を日頃から想定し、地域の弱点や防災の役に立つ要素や資源を発見しておく事が大きなポイントとなります。歴史都市の元々持っている素質を見抜き、その良さを上手に活かすことによって、美しく且つ安全なまちづくりがみえてくるはずですよ。

古川町商店街

夕方・光のものがたり

商店街の空白の時間帯である「夕方以降」。その時間を利用して、商店街についての映像をシャッターに投影して普段の商店街の昼の風景を紹介しました。

商店街の閉店後に通行することが多い学校帰りの学生や会社員の方に商店街について知ってもらい、足を運んでもらうきっかけとなるように進めました。堀川商店街（京まち工房 52号参照）に引き続き、2例目となる京都まちづくりコンペ実現化企画です。

☆ 古川町商店街 HP <http://www.furukawacho.com/index.html>



1600年代後半から、古川町通りと呼ばれ、知恩院、八坂神社、清水寺への参道として人の往来が盛んでした。現在は昭和レトロな雰囲気を残した商店街です。

ヒアリング・議論をかさねて映像作成

周辺地域を含めた古川町商店街の歴史ある背景を誇りに思い、こだわりのあるものを扱うポリシーを持って商売をしている店主や、商店街全体で行っている活動等、普段ではなかなか知ることのできない商店街の魅力を学生が取材しました。取材した内容をもとに制作をスタート。商店街メンバーと学生メンバーで映像について議論を行いながら映像作成・ヒアリングを重ねました。

参加学生 大阪大学大学院：中井千尋・中村太一 / 京都嵯峨芸術大学：平良岳之・重田茜



完成
お披露目会！

平成 23 年 10 月 9 日 18:30 ~ 21:30
映像完成お披露目会

完成した映像を、シャッターに投影し、お披露目会を行いました。地域のお祭りと同時にいったため、帰省中の子供が映像に興味を示し遊ぶ場面も有りました。

学生によるヒアリングの過程や映像の制作を通じて、商店街の方も古川町商店街全体の魅力や、自店・他店の良いところを再発見する機会になったと思います。今後の商店街のまちづくりを考えていく上でのきっかけとなるよう今後も取り組んでいきます。

完成した
商店街の映像

店主さんと相談しながら
実現する過程が
良い経験になりました。
(学生の皆さん)

人とのふれあいのある
スローな商店街を面白い形で
知ってもらいたいです。
(商店街の皆さん)

私と京都

大阪産業大学准教授 中川 等

身近な住文化を
受け継ぐ



私 は京都の東山の麓に生まれ育ち、職場が大阪になった今もそこに住んでいる。祖父の代に神戸から引っ越して、その頃まだ田畑の多かった当地に家を建てたらしい。主屋は中廊下のある和風住宅で、祖父が陶芸をしていた関係で、以前は裏庭にろくろのある仕事場があった。大正から昭和初期に宅地化が進み、また京焼を業とする家が多い地域だったので、子どもの頃から身近なところで伝統的な建物と暮らしに接してきた。その後、町家と民家の調査研究に携わるようになり、改めて京都の住文化の厚みに感銘を受けた。

京都の町家では、表通りに面して店棟を構え、奥に平行して居住棟を建て、両者を玄関棟が接合する表屋造という形式が見られる。玄関の両側には中庭、居住棟の奥には座敷庭が調えられる。建物と庭を交互に配置して、奥行き深い住まいに光と風、そして庭ごとの美しさと季節感を取り込んでいる。夏になると建具をすだれや蔭戸など通気性の高いものに取り替え、適所に打ち水をするなど蒸し暑い夏を涼しく暮らす伝統があり、まさに建物のかたちを生かした暮らしの知恵が継承されている。

一方、冬の寒さが厳しく積雪の多い洛北の民家では、日常生活を営む「台所」という広いへやの真ん中に囲炉裏とかまどを並べて築いている。火を焚く設備を一箇所にまとめることで暖房効率を高め、火処の周囲に家族が集まることで冬を暖かく過ごしてきた。また、囲炉裏に座った家族の背後に太い大黒柱と重厚な戸棚を造り付け、天井の力強い梁組ともに見応えのある内部空間を構成している。かまどには立派な荒神さんを祭り、正月には囲炉裏の背後に歳徳さんを飾って台所に彩りを添えてきた。

ひるがえって、現在の住まいと暮らしのあり方をながめると、ここ50年程の間に機械設備の普及と設計技術の向上によって、機能的な合理性と身体的な快適性は実現されてきた。しかし、心が要求する落ち着きや安らぎといった精神的な快適性と文化的な豊かさについてははなはだ心許ない。京都の各地にそれぞれの風土と歴史と共に受け継がれてきた身近な住文化の中に、これからの住まいづくりを考える数多くのメッセージがこめられているように思われる。

スタッフ K.O

京町家まちづくりファンド担当
最近、初めてマラソン大会に出ました。
祝 10km 完走！



スタッフのつぶやき



年の瀬の慌ただしさが増してきました。気づけば今年もあと少しです。年々、一年が過ぎるスピードが増しているように感じます。ある人から、「歳をとるほどに、時間が早く過ぎていく」と聞いたことを思い出しました。確かに、小さい頃に比べると、格段に早く過ぎています。実際、今年の後半は早かったです。というのも、センターで仕事をするようになったのが今年の7月から。あっという間に過ぎました。いきなり現場にたたき込まれる感じでしたので特にそう感じたのかも知れませんが、充実した毎日をおくれていたのは事実です。センターに来て、今までしてきた設計の仕事に比べ、人と出会う機会が格段に増えました。これはセンターがそれだ

け様々な人と関わっている事を示していると思います。「はなしをする」事はとても大切な仕事です。会話の中でわれわれは、話の行き先を考えたり、相手の意図を探ったり、様々な事を考え、頭を使います。そういう意味で、会話の上手い人は頭の回転が速く、聡明な人が多いです。そういう方の話は聞き取りやすく、分かりやすいです。若輩な私は会話の行き先が定まらず、寄り道ばかりです。英会話より、もう一度日本語を勉強しないとイケないくらいです。来年は今年よりもうまく会話ができるようになりたいものです。つたない話でしたが、あっという間の半年間有難うございました。良い年越しになりますように。